

# 生存科学研究ニュース

VOL. 16. NO.2 2001. 3. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3563-3518 FAX 03-3567-3608  
Eメール seizon@mx1.alpha-web.ne.jp

## 平成12年度第2回理事会

平成13年2月9日(金)午後2時から教文館会議室において下記の議案について理事会が開催された。江見理事長が議長に就任し、来年度の基本方針について説明があった。

### 記

- (1) 平成13年度研究事業計画について
- (2) 平成13年度収支予算について
- (3) 役員改選について
- (4) シニア会員制度について

(1) 平成13年度研究事業計画は次のとおり

#### 自主研究事業

- A. 川崎病研究会
- B. 21世紀医療システム研究会
- C. 21世紀世界の文明と生存の研究会
- D. 銀座ナイトセミナー
- E. 21世紀における生存科学としてのバイオエシックスの構築
- F. 形態生存医学研究会
- G. 自主研究中長期基本構想委員会共同研究事業

- A. 日本川崎病研究センター
- B. レオンチェフ文庫

#### 広報活動事業

- A. シンポジウム・生存科学講座

#### B. 生存科学研究ニュース 学術研究誌発行事業

##### A. 学術誌『生存科学』 受託事業

- A. 地球環境リスク管理研究
- (2) 平成13年度収支予算案について討議がなされ原案通り議決された。
- (3) 役員改選については前回と同様の方法で行うこととし、新たな理事候補について理事会でも推薦することが承認された。

## シニア会員制導入のお知らせ

平成12年度第2回理事会において、新年度より会員の種類をふやすことが決まりました。

### 〈シニア会員〉

資格	75歳以上でシニア会員を希望される方
年会費	5,000円
会員であることの特典	準会員・学生会員に準じます

ご希望のかたは事務局までお申し込み下さい。

12月14日（木）午後6時より、メンタルヘルス国際情報センター長の小林司氏を招いて、表記セミナー「エスペ란ティストの『生きる』」が開かれた。

小林氏とエスペラントとの「出会い」は戦争中の百科辞典での発見に始まる。独習で学習し、読んだり話したりできるようになった。『危険な言語』（栗栖 継、岩波新書、1975）にあるように、エスペラントは言語差別をなくして世界平和をめざす国際共通語であり、その国際的な性格から、ナチのドイツでも、共産圏のソ連でも、日本でも弾圧され、強制収容所で殺されたエスペランティストも多い。小林氏は16代続いた医業の家系として医学部に入学したが、常にエスペラントで平和のための仕事をしたい、エスペラントを世界に広めたい、という考えがあった。

1952年に、ガリ版刷りのエスペラントの雑誌にあった大島義夫による「日本に輝く三つの星」という論文との「出会い」がある。そこには日本のエスペラントとしての長谷川テル、斉藤秀一、中塚吉次の3人のことが記されていた。長谷川テルは日中戦争（支那事変）の時に中国へ渡り、「中国が勝てばそれは人民の解放を意味し、日本の軍国主義が勝てば日本の人民は苦しむ」と考え、重慶から日本の兵士向けにラジオで反戦放送を行っていた。斉藤秀一は、中国の言語改革者でもあった魯迅らと組んで、世界言語改革連盟を作って、日本の植民地だった朝鮮と台湾にお

ける現地語弾圧を批判する活動をしていた。彼は山形県鶴岡をベースに平和のための活動を行っていたが、彼の活動はあまり知られていない。そこで小林氏は斉藤秀一の伝記を書こうと決意し、その後、長年にわたる調査執筆活動をつづけ、現在も進行中である。

医学部卒業後、精神科医になったが、この領域における外国語の文献の正しい理解が困難であることに「出会い」、これを解決するために、英、独、仏、ラテン語の辞書を作ることを思い立つ。

エスペランティストとしての活動、斉藤の伝記を書くこと、辞典を作ることは、多忙な医師生活と両立できない。そこで1977年に医師を辞める。この頃、依頼に応じてシャーロック・ホームズについて書いたところ、非常に好評で、その後週に一日は斉藤秀一、一日は辞典、他はホームズなどの仕事と決め、現在までにホームズ関係の本を62冊書くことになった。辞典は『精神医学・行動科学辞典：英独仏ラ和』（医学書院、860P., 1993）として完成した。

イスラエルの哲学者、マルチン・ブーバーの『我と汝』（岩波文庫、1979）に「真の生とは出会いである」とある。小林氏は「自己表現」とは「本当に自分らしい自分になるプロセス」であり、例えば総理大臣になりたいと思って総理大臣になることではなく、もっと心の問題であって、例えば「いい人になりたい」「正直者になりたい」ということである、とされた。

その後の討論では、エスペラントの創案者

であるポーランドのユダヤ人であったザメンホフの思想と活動、各国語の存在を認めた上での「橋渡し言語」の世界共通語としての 에스ペラントの存在、同様の考えにもとづくザメンホフの橋渡しの世界共通宗教として「自分にしてほしくないことは、他人にもなすことなかれ」という唯一の教義をもつ「ホマラニスモ」（人類人主義）の考え、最近のエスペランティストの活動や、世界エスペラント大会の動向、スターリンの言語論、IT時代の言語、ユダヤ人国家のあり方、コナン・ドイルについての深層心理や病跡学、など多岐にわたる議論がなされた。（津谷喜一郎）

#### 第5回 21世紀医療システム研究会報告

上記研究会が12月18日(月)午後5時30分より「老齢保障の総合化」-保健・医療・福祉(介護)の連携について、をテーマに開催された。

今回は、府川哲夫氏（国立社会保障・人口問題研究所）が「老齢保障の総合化」のテーマで報告した。

全体をⅠ部:医療保険、Ⅱ部:介護保険、に分け、それぞれについて(1)現状認識、(2)問題点、(3)問題解決の方向、の3項目について説明のあと、委員相互で討論が行われた。

Ⅰ部では、国民皆保険40年の経験を踏まえて、日本の医療システムの評価がなされたが、問題点として医療の質向上への努力が放置されているのではないかと、点数表ですべての問題を解決しようとしてきた従来のやり方

は限界にきているのではないかと、良い医療のための負担増に対する国民の抵抗は政府に対する信頼の低下が一因ではないかと、など活発な議論が行われた。

Ⅱ部の介護保険については、1年間の経験を踏まえて問題点を整理することになったが、一つのテーマとして、現物給付と現金給付の長短をめぐって、委員間で活発な議論がたたかわされた。（江見康一）

#### 第6回 21世紀医療システム研究会報告

上記研究会が1月22日(月)午後5時30分より開催された。

今回は「21世紀医療システム研究会」における最後の課題として「医薬品経済の分析」を、赤沢とし子委員が報告した。

これについては、平成10年から精力的に進められている医療保険の抜本改革の柱が、①薬価問題、②診療報酬、③医療提供制度、④高齢者医療制度、の4項目となっており、薬価問題が重要な柱になっていること、薬価問題については、国民医療費に占める薬剤費の割合、老人医療費に占める薬剤費の割合などの動向分析と、個々の老人医療受診者の薬剤費負担の問題の二つの側面があり、両者をつなぐ「薬価基準制度の見直し」と、それに関連して提案された「日本型参照価格制度」が紹介された。

薬価問題については、すでに平成10年1月に、医療保険福祉審議会制度企画部会が6項目の論点整理を行っており、また平成12年1月に丹羽厚生大臣（当時）が上記部会に諮問した「健保制度改正要綱」における「老人薬

剤費一部負担の廃止と定率一割負担を軸とする新たな老人負担制の導入」があり、これらの影響分析を含めて理論的整理の必要が強調されたが、とくに「日本型参照価格制度」については、その有効性をめぐって活発な議論が行われた。(江見康一)

第9回  
21世紀世界の文明と生存の研究会

上記研究会が2月24日(土)午後6時30分より「20世紀後半の地域保健医療活動：日本とタイ」をテーマに開催された。

今回は外部から講師二人をお招きし、20世紀後半の地域保健医療活動について、日本とタイのケースレポートをお話いただき、それに基づいてディスカッションを行った。

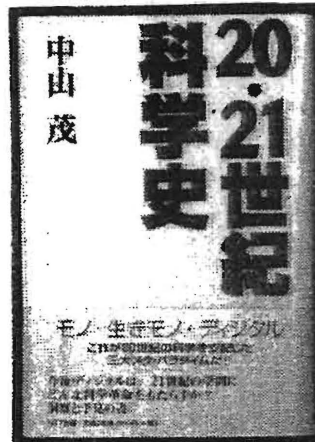
まず、山口県立大学名誉教授の吉田節子先生に「戦後日本の地域栄養活動を振り返る」と題して、昭和30年代から40年代にかけての山口県における地域栄養活動の実践活動について報告していただいた。当時の地域活動ではキッチンカーなども利用して、栄養教室によって活動の中心になる人材を養成し、さらに養成された人々が再び指導者となって活動の輪を広げていった経過を実例によって説明された。また、当時育成された地域では、現在でも次の世代に受け継がれて活発に活動が続いているという話も印象に残った。

次にタイ保健省のDr. Yongyuth Pongsupapは、「タイの在宅医療への試み」として、タイにおける地域医療の歴史的経緯と現状について報告された。1884年に近代医療の導入後、医師は病院で働くものという観念が形成

され、地域医療は非医師の手にゆだねられていた。1980年代の終りにアユタヤ・プロジェクトで初めて地域保健所に医師(Dr. Yongyuth自身)が配属された。それにより、地域に生活する人々の考え方と医療人の考え方との違いを通して、医療そのものが見直されていること、また、そうした事例に刺激されて、現在では病院医療中心のタイにおいても在宅医療を行なおうとする医師が30人位にまで増加してきたことや、タイにおける医療保険制度など、さまざまなことが紹介された。(丸井英二)

寄贈図書

20・21世紀科学史



中山茂 著  
2000年2月発行  
発行所 NTT出版  
定価 2500円+税  
中山茂氏は銀座  
ナイトセミナーのメンバー

今後デジタルは、21世紀の学問にどんな科学革命をもたらすか？  
洞察と予見の書。(本書、帯より)

研究所日報

- 1月18日(木)第4回常務理事会
- 1月22日(月)第6回21世紀医療システム研究会
- 2月1日(木)自主研究基本構想委員会
- 2月9日(金)平成12年度第2回理事会
- 2月24日(土)第9回21世紀世界の文明と生存の研究会
- 2月27日(火)第12回銀座ナイトセミナー
- 3月8日(木)平成12年度第2回評議員会
- 3月8日(木)3役会